

31万人 元気都市四日市へ!! 令和記念号!

第34号

森ともひろ通信



あなたは 4 0 7 0 4 1 人目の読者です。

40歳 四日市市長

新時代『令和』がスタート!四日市市の令和元年の展望は

5月1日、新たな時代『令和』がスタートしました。新時代においても四日市市は引き続き『31万人元気都市』を目指し、名古屋圏を牽引する活力溢れる都市へと成長していきます。

今回の市政報告レポートでは、令和元年の四日市市の展望について紹介していきます。

一般会計当初予算

1,210億円は過去最大規模に

2019年度の一般会計当初予算は1,210億円となり、過去最大の規模となりました。その背景には、好調な企業業績や企業の積極的な設備投資等に起因する過去最高の税収(当初予算ベース)があります。

過去最大の一般会計規模ということは、言い換えると市民サービスの向上に掛けることの出来る予算の額が過去最大ということになります。『31万人元気都市四日市』の実現の為に、従来から掲げている7つ基本方針「子育て・教育支援」「産業振興」「まちの賑わい」「地域力の向上」「福祉・医療の充実」「市役所改革」「シティプロモーション」に従い、積極的な予算編成を行いました。一方で、将来の子ども達の教育環境整備の為に「アセットマネジメント基金」への積み立ても行い、将来世代への手当ても行い、持続可能な自治体運営を実現するための世代間の均衡も図っています。

新総合計画

市の今後10年の方向性を決める計画策定が佳境に

四日市市は、来年度(令和2年度)から新しい『総合計画』をスタートさせます。『総合計画』とは、長期的な展望に立って自治体の目指すべき将来像を描き、その実現に向け総合的かつ計画的なまちづくりのあり方を示すものです。本市は、10年を『総合計画』の期間としており、新総合計画は今後10年の本市の進むべき道を決める極めて重要な計画になります。策定作業は昨年度からスタートしていますが、今年度その策定作業が佳境を迎えます。

策定を進める中で、多くの市民の皆さんの声を『総合計画』に反映するために市民シンポジウムや懇談会の開催、各種アンケートの実施等を精力的に行っています。また、6月から始まる今年度の「タウンミーティング」においても行政からのテーマを『総合計画』に設定し、多くの方からの意見を拾い『総合計画』に反映していきます。

中枢中核都市に指定

北勢地域の拠点都市としての役割を担う

昨年12月に政府は、東京一極集中の是正に向け、地域経済や市民生活を支える地域の拠点となる『中枢中核都市』82市を発表し、四日市市が選定されました。本市は、三重県北勢地域の中心・拠点都市としての役割を担うこととなります。

今後、国は『中枢中核都市』に対する各種支援を実施していきます。本市は、国の動向を注視し、北勢地域を強力に牽引出来る都市を目指し、広域的な連携についても積極的に取り組みを進めていきます。

三重県で初!

公認会計士を職員として採用

四日市市役所は、2月から「会計専門監」として『公認会計士』を採用しました。公認会計士の職員採用は、三重県内では初の取り組みとなります。私は、行政運営に会計マネジメントの視点を取り入れ、数値管理を徹底し、強力に行財政改革を推進することが、組織の強化や職員の意識改革を含む市役所改革に繋がり、市民サービスの向上に資すると考えています。「会計専門監」は、昨年度から設置した「行財政改革課」に所属し、力強く行財政改革に切り込んでいきます。

『四日市ナンバープレート』図柄デザイン決定!令和2年度から導入

昨年12月に、ご当地ナンバー「四日市ナンバープレート」の図柄入り版のデザインが決定しました。図柄デザインは、市内の高校に通う高校生を対象に募集し、90点のデザインを応募頂きました。審査会を経て最終5案まで絞られ、インターネットや四日市大学、広報マーケティング課でアンケートを実施し、最終選考会で最優秀賞が決まりました。

当図柄には、「工場夜景」と「こにゅうどうくん」がデザインされ、四日市市の魅力がギュッと詰まったものとなっています。『四日市ナンバープレート』は令和2年度からの交付を予定しており、交付後は「図柄なし」「モノトーンの図柄あり」「フルカラーの図柄あり」の3種類から選んで頂くことになります。

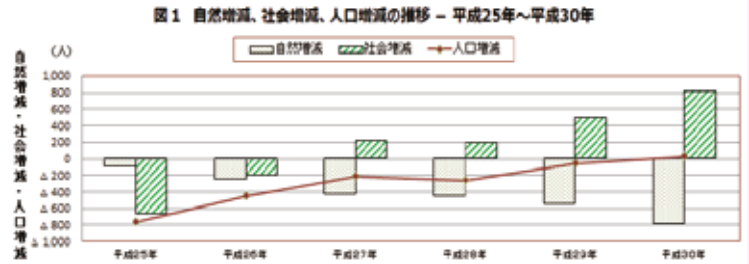


四日市市が8年振りの総人口増加! — 選ばれるまちを目指して

平成31年1月1日時点の四日市市の人口は312,190人（前年比27人の増加）となり、総人口として8年振りに増加に転じました。日本全体の人口が減少している中、四日市市の総人口が増加に転じた事は非常に喜ばしい事です。

日本全体が少子化という問題を抱えており自然減（死亡数が出生数を上回る）の傾向にある中、四日市市においても平成23年から自然減が続いており、その減少幅は年々増加しています。その一方で、四日市市はリーマンショックの影響で平成21年から社会減（人口流出）であった状況が、近年の活況な経済活動を背景に平成27年から社会増（人口流入）へと転じました。

その社会増の数は、年々増加する傾向にあり平成30年には817人の社会増を達成しました。平成30年は、自然減が790人でしたので、本市が自然減に転じて以降、初めて社会増が自然減を上回ったことになります。特に、20代の若者の人口流入が顕著で、20代に限ると1,000人を超える社会増となっています。今後も、「選ばれるまち四日市」を目指し、攻めの施策を展開していきます。



新図書館の立地場所確定へ — 可能性調査検討予算が可決

昨年11月の定例会議において、「新図書館を含む中心市街地拠点施設整備事業における可能性調査検討経費」予算が可決されました。これまで、「市庁舎東側広場」を当該事業の立地場所として想定し、基本計画までの策定を進めていましたが、今回の予算可決により新たな立地場所の候補として「近鉄四日市駅直結エリア」「JR四日市駅直結エリア」を加え、従来の「市庁舎東側広場」とを合わせた3候補地で最終的な立地場所を確定することとなりました。

市制123周年に向けて! — B-1グランプリ、ハーフマラソン開催決定



来年度（令和2年度）、四日市市は市制123周年を迎えます。123周年、つまり「1・2・3・四日市!」の年です。四日市市として最初で最後の特別な年度を大きく盛り上げていこうと、様々な計画を練っています。その中で、市制123周年記念事業として、『東海・北陸B-1グランプリ（令和2年5月予定）』と『ハーフマラソン（令和3年3月予定）』の2つの大きなイベントの開催が決定しました。

これまで、ご当地グルメ「四日市とんてき」が『B-1グランプリ』に継続的に出場してきましたが、来年度は初の開催地として2日間で10万人を見込む来場者をお迎えします。また、これまで開催していた最長10kmを走る「シティロードレース大会」を大幅にバージョンアップし、本市で初めての『ハーフマラソン』を7,000人規模実施します。皆さん、楽しみにして下さい!

・街頭演説 93か月連続実施中!!

平成23年8月から毎月、市内各地で実施している街頭演説が、4月27日で連続93ヵ月を迎えました。

・駅立ち650日到達!!

5月7日のJR四日市駅の駅立ちにて通算650日目となりました。平成22年9月21日から行っている朝の駅立ちは、政治家森智広の活動の原点です。原点を忘れず、市民の皆さんに自らのメッセージを届け続けます。

駅立ち実績 (2018年12月3日～)

12月 3日 近鉄四日市駅北口	12月26日 近鉄塩浜駅東口	2月 1日 近鉄霞ヶ浦駅	3月 8日 近鉄伊勢川島駅
12月11日 近鉄富田駅西口	1月 7日 近鉄四日市駅東口	2月13日 近鉄川原町駅	3月13日 近鉄中川原駅
12月13日 近鉄四日市駅西口	1月15日 近鉄塩浜駅西口	2月27日 近鉄北楠駅	4月24日 近鉄桜駅
12月17日 近鉄富田駅東口	1月23日 近鉄阿倉川駅	3月 5日 近鉄伊勢松本駅	5月 7日 JR 四日市駅



森 智広 プロフィール

学 歴

平成6年 西陵中学校 卒業
 平成9年 四日市南高校 卒業
 平成13年 立命館大学 理工学部 卒業
 平成23年 早稲田大学大学院公共経営研究科 修了

職 歴

平成15年 中央青山監査法人 入所
 平成18年 あらた監査法人 入所
 平成19年 公認会計士登録
 平成21年 プライスウォーターハウスクーパース株式会社 事業再生/再編グループ 出向
 平成22年 あらた監査法人 退所
 平成23年 四日市市議会議員選挙にて、5,493票の負託を受けてトップ当選 [現役最年少]
 平成25年 税理士登録
 平成27年 四日市市議会議員選挙にて、5,852票の負託を受けてトップ当選
 平成28年 四日市市長選挙にて、46,051票の負託を受けて当選

【役職】

・全国施行時特例市市長会 会長
 ・三重県後期高齢者医療広域連合 副連合長



継続的に市政情報発信しています!
 森ともひろブログ

森ともひろブログ

検索